（別紙4）　　　　平成　22　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4270201702		
法人名	特定非営利活法人　おりおせ福祉の森		
事業所名	グループホーム　あっとホーム黒髪		
所在地	〒857-1152　長崎県佐世保市黒髪町6515番地27		
自己評価作成日	平成22年10月20日	評価結果市町村受理日	平成22年12月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活法人　ローカルネット日本福祉医療評価支援機構
所在地	〒855-0801　長崎県島原市高島二丁目7217　島原商工会議所1階
訪問調査日	平成22　年　11月　11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

今年も昨年に引き続き、町内自治会の役員を勤めております。その事で地域の方々の認知が徐々に高まってきていると感じています。更に交流を深めるべく、町内行事に積極的に参加して行くつもりです。また法人内での研修も行われるようになり、職員の意識の向上が期待されています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

当該ホームは住宅団地の民家を改築し、その特色を活かして限られたスペースを工夫されている。階段には両脇にクネット（手すり）が設置され、利用者の生活の質の向上と安心、安全のサービス提供に努められている。管理者は区長をすることで、地域の方々と積極的な交流を図り、事業所の存在をアピールされている。子供達が自治会のポスターを持って来たり、手紙のやり取りをされ利用者が子供と触れ合える楽しみの一つでもあり、小中学校との交流を取り組まれる事に意欲を感じられた。また、事業所のミーティングの方法が、法人との定期的な合同研修に取り入れられ定着してきた。利用者本位のサービス提供姿勢が窺え、期待が持てる事業所である。

V．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者の人権尊重･限りなく家庭的な雰囲気の中でその人らしくと言う理念をミーティングで唱和し、実践につなげるよう心がけている	利用者の人格、人権が謳われている理念を基にサービスを利用される前と同じように生活され好きな事ができるように笑顔で接する事を心がけ、支援に努められている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は、地域の一員として町内の区長を勤め、大清掃、夏祭り、総会の開催等行事に積極的に参加し交流を図っている	町内会に加入し、本年度は区長という役を引き受けられた。利用者の地域活動への参加は体力的に困難な方が多いが、日々の暮らしの中で交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の交流を通して認知症についての話をしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議に於いて地域代表、利用者代表、家族代表の意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、事業所の活動内容、利用者の現況報告、外部評価、今後の事業所としての取り組み等、意見交換がなされているが独居者が多いことから参加される家族が少なく、報告も殆どされていない。	事業所のサービス向上に繋がるよう会議内容の意見、質問等を共有する為にも家族に報告すろことで、参加してもらえるよう努める事が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町内会の活動を通して民生員、市や地域包括支援センターと連携をとり交流を図っている	月に1～2回出向いた時には、市の担当者を訪問していたが、最近は生活福祉課の方と協力関係が築かれている。今後は長寿社会課担当者との積極的な取り組みも表明された。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	徘徊の耐えない利用者がおられて玄関の施錠が望まれるが、法人の理念を職員に再認識してもらい、目配り気配りを強化する事で施錠をしないようにしている	身体拘束は全職員が正しく理解されており、不安や混乱無く過ごせるように配慮されている。外出傾向のある利用者には気配りのある声かけを心がけ、付き添って身体拘束をせず安全に過ごしていただくよう支援されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員会議の中で虐待行為は基より言葉による虐待にも十分配慮した対応をするよう呼びかけている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定例の会議に題材としてあげて勉強会をしたかったが、限られた時間の中で取り上げる事が出来なかった		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解･納得を図っている	利用者･家族に対して充分説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在に於いても口頭による意見を、口頭で返しているのが実態で記録の整備が出来ておらず、課題として残っている	意見箱は設置しているが、投函は無く活用されていない。家族の面会時に、口頭で意見、要望などを伺い対応している。利用者の半数は独居者が多く、本人の発言を尊重し運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝のミーティングや定例会でも活発な意見が交わされ、最近に至っては理事長参加のもと、各事業所との合同研修が定期的に開かれるようになった	当事業所のミーティング手法が法人全体に広がり、月２回に分け合同研修が行われている。活発な意見交換は代表者と職員の信頼関係を深め、より良いサービスの提供に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境･条件の整備に努めている	定期的に開かれる全体の集まりの中でも、本部や理事長から、労働条件、環境整備等直接職員へ向けての話があるなど、処遇改善にも配慮が見られる		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体の職員に本部から個人面談をして介護に於けるあらゆる分野に関する自己評価をして改善向上を目指すように指導があっている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会等を通じ同業者との連携交流を図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に不安感を与えないよう笑顔で接する事を心がけ、希望に添った援助をする		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の段階で本人の情報を出来るだけ多く聞き取り折々の訪問時に近況報告をしながら更に、希望をよく聞き、馴染みの関係を構築していく		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	透析希望の利用者はもとより、リハビリ希望者があった場合、介護保険の許す範囲で支援していく		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設の中の家族としての関係を大切にしながらも人生の先輩として自己の尊厳を尊重した対応をしていく		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と本人の絆の深さ」大切さを理科し、不穏時など状況を詳細に報告し、本人が安心して過ごして頂けるよう、一緒になって考える		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの場所や人等聞き出し、外出の形でその場所を訪れたり、本人の喜びになってもらえるよう支援している	友人、知人が気軽に遊びに来られ、食事の誘いを受け外出されたり、行きつけの美容室へ出かける等、馴染みの関係が途切れないように支援されている。週3回訪問される家族もあり、利用者の安心に繋がっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の利用者が孤立されないよう、職員が間に入って、利用者間の話が途絶えないような気配りをしている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も職員が、面会に行ったり家族に近況を尋ねたりしている		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で本人の意向を聴くように努めている	日々の生活の中で利用者が何でも気軽に話せる雰囲気を作られており、希望、意向を聞いてすぐに対応されている。トイレの手すりの細かい場所の要望にも、管理者が手づくりで対応されていた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の職員ミーティングで情報を把握し更に本人や家族との会話を通じて生活歴等を把握するよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝礼の申し送りの中で個々の利用者」の前日の状況を把握する（不参加の職員は日誌等を読んだり職員に確認したりして情報を共有する）		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月事のプランの見直しの中で、次回の計画について問題点、反省点、追加プラン等を反映させている	利用者や家族の希望を取り入れて作成し、日々の個別記録も介護計画に沿った内容の記録がされており、短期、長期目標のモニタリングで必要な場合は、利用者の現状に即した見直しもされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	新たに業務日誌を作り気づきやすい情報を記録し、確認後サインするようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族との旅行や地域の夏祭り参加、選挙の投票同行等の支援を行っている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の夏祭りに参加したり近隣の小学校の児童との手紙のやりとりを行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医には継続で診察をお願いし本人及び家族にその都度説明し希望を取り入れ、支援している	週3回透析される利用者には、かかりつけ医まで送迎している。週1回協力医の往診があり、異常がある場合は家族に連絡し、適切な医療を受けられるよう支援をされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	情報の共有は出来てもｻｰﾋﾞｽとしての視点の違いで統一できない事があり今後の課題である		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の情報交換を行っているが、病院関係者との関係作りは出来ていない		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人･家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、重度者や終末期の利用者がいない為、話し合いはされていない	現在該当者はいないが、事業所としての方針がまだ決まっていない為、本人、家族の意向の確認も行っていない。	利用者が高齢である事を考慮し、利用開始時の契約段階で、終末期対応の説明は重要である。早急に事業所の方針を決定し本人、家族への説明と意向の確認に取り組まれることに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練の実行はできていない		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会のもと、防火訓練を行い指導を受けている　運営推進会議で地域代表には口頭で協力をお願いし快諾を得ているが具体的に話は進んでいるとは言い難い	法人とのネットワークで協力体制にあり、地域住民には、避難した利用者の見守りを依頼している。今後非常持ち出しリストを作成することを検討されている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	泄・入浴時の言葉かけやプライバシーの確保は特に気をつけて行っている	サービス提供の中にも本人の意思を尊重し、プライドを傷つけない言葉かけに努められている。管理者、職員ともに利用者との関わりの姿勢に気配りが感じられる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクレーションやフロアーにて過ごされる時は、読書や塗り絵等、各人の好みのメニューで過ごして頂くよう心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	玄関先での日向ぼっこ、散歩、買い物、外食等、利用者の希望に沿った計画を立てています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容院からカットに来てもらったり、又は外に同行したり、外出時は好みの服を来て頂くよう支援している　入浴後も化粧水をつけたり、ヘアークリームをつけたり等支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に得意メニューを作ったり、下膳をお願いしたり、その日のメニューのことを話したり、楽しんで頂けるよう努めている	メニューは栄養士が決めているが、利用者の好み、生活習慣上での食されない日、時にも対応されている。利用者は、下ごしらえや下膳、茶碗拭き等できる範囲で参加されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の適量を提供し、お変わりは自由に対応している　又水分もお好みの眼にゅうーうぃ提供している　宗教上の理由で肉魚が食べられない方には別メニューを提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後全員に声掛けし自立の方でも磨き残しのチェックをしている　舌苔のある方には舌のブラッシングして頂けるよう声掛けをしている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表に基づき定期的定期的にトイレ誘導をする事で、パットの使用量も減り自立方向での支援が進行している	利用者全員がトイレで排泄できるよう支援しており、布パンツ若しくは尿とりパットを使用している。自立されている方が増えているので、排泄パターンを活かして、見守りながらの介助に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	健康体操や散歩をして頂いたり、食事のバランスに留意して野菜を摂って頂くよう心がけている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	定まった入浴日に限らず、本人の意向に添うように融通を利かせ対応している	基本的には、火、土の週2回であるが、希望に合わせて支援されている。足浴支援もされており、入浴拒否者へはタイミングを見計らい、声かけをしている。湯上り後には、各自好みのスキンケアー用品も準備されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活のサイクルを把握し、臨機応変な対応を心がけている　昼夜逆転にならないように声掛けをしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を手の届くところに於いて、職員に把握してもらい、何かあった時に歯すぐ看護師に連絡、指示を仰ぐ体制を摂っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の好きな歌の時間は毎日欠かさず、定番の貼り絵も季節でテーマを決めて共同作業で作品作りをして頂く等充実した一日になるよう職員全員で支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日ドライブ、買い物にお連れしたり、行事として外食に出かけたり、楽しい思い出となるよう支援している	天気の良い時はドライブを兼ね、季節の花を楽しんだりできるよう三河内、展海峰と普段行けない場所へと近隣地区に外出している。買い物も楽しまれ五感に刺激が得られるよう支援している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が買い物をを希望する時など、必要に応じて使えるよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族との連絡を希望する時、電話をかけてもらったりかけて差し上げたり、手紙がかけるようにお膳立てしたり支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外からの不快音、強い日差しなどが入らぬように配慮している　季節に合わせた作品作りを心がけている	殆どの利用者が起きている時間はリビングで過ごされているが、窓越しには、地域住民や小学生の往来の様子、農作物の生育風景で季節感を味わうことができる。廊下には、利用者のちぎり絵作品が季節毎に飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人のイスやソファーを置き、自由に利用できるようにしている　たまの席替えによって、他の利用者とのコミュニケーションにも配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの家具を持参して頂いたり仏壇を持参されたり　従来の生活空間に近くなるように配慮している	馴染みの家具を持参されており、家具等の配置や装飾などから利用者の趣味や好みをうかがい知る事ができる。これまでの生活の延長として、本人の安心できる場所、環境作りに努められている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の自分の事は自分でしたいと言う願望(安全に歩行が出来る)に添えるように手すりを更に増設したり、動線に障害物を置かないなど気配りを怠らないようにしている		